

(様式第4号)

第4回上田市総合戦略推進協議会 会議概要

1 審議会名	第4回上田市総合戦略推進協議会
2 日時	平成31年3月15日 午後3時から午後5時40分まで
3 会場	市役所本庁舎 6階 大会議室
4 出席者	岡崎美都里職務代理者、加藤松子委員、熊井健二委員、土屋直樹委員 原有紀委員、藤川まゆみ委員、宮島博仁委員、母袋卓郎委員
5 市側出席者	柳原政策企画部長、鎌原政策企画課長、加々井政策企画担当係長、上原主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	2人 記者 2人
8 会議概要作成年月日	令和元年5月8日

協 議 事 項 等

1 開 会

(司会：上田市政策企画課長)

2 あいさつ

政策企画部長からご挨拶申し上げた。

3 委嘱状交付

新任の委員に対し、机上にあらかじめ配布した委嘱状の確認をもって委嘱状の交付とさせていただいた。

4 委員自己紹介

50音順名簿の順で、出席委員から自己紹介を行った。

5 事務局職員自己紹介

会議に出席する事務局職員が順に自己紹介を行った。

6 議 事 (進行：岡崎職務代理者)

(1) 上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

(事務局) 市としては、上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を第二次上田市総合計画後期まちづくり計画に位置付ける方針にあり、後期まちづくり計画は平成33年度(2021年度)からのため、1年間の空白を埋める必要がある。このため、総合戦略の計画期間を1年間延長することを予定している。

(2) 上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中間評価について

【戦略1】上田で働きたい戦略

(委員) 「1-①地域経済雇用を牽引するものづくり産業の振興」中、基本方向に産官学金の連携が掲げられている。上田市の商工観光部を中心に、地域の企業に対し、日頃から産官官による密な連携を取れていると感じている。特に、人口減少はもちろん、事業所の減少も近年深刻化している中、各種助言や補助金提供、工業団地造成や空き店舗のマッチングなど販路拡大、ブランディング、クラウドファンディング支援による創業支援の新設など、幅広い支援に取

り組んでおり評価できる。

一方でそのような上田市の補助金、助成金の各種施策について、それを活用する事業者が制度を認知していないということも多く、金融機関としてはできるだけ行政の各種施策を事業者へ周知する形で協力してまいりたい。

新年度以降の新たな補助金メニューなどを共有いただけるとありがたい。

(事務局)

国の交付決定を受けた後に、補正予算で新規事業として要求していくものなどもあるが、産金官連携雇用創出事業、基幹産業推進体制事業、ものづくり産業相談体制整備事業の補助金など予算の充実・拡充を図っている事業もある。

(委員)

「1-②人材育成・雇用マッチングの拡充」中、KPI 「高校卒業就業者に占める市内就職者の割合」が年々下がっている理由は、大学進学率が伸びているということか。

(事務局)

数値が下がっている要因の詳細な分析はなされていないが、大学進学率の伸びだけが原因ではないと推測している。委員各位のお考えや対処策の御意見などをいただければ、新たな雇用促進担当部署の企画立案などに反映してまいりたい。

(委員)

「1-④農林業の稼ぐ力の創出」中、主な取組①6次産業化推進事業のワイン用ブドウ苗木補については、ヤマブドウのみへの苗木補助なのか。

(事務局)

苗木の補助については、ヤマブドウに限定するものではない。一方で特徴あるワイン用ブドウ品種の栽培研究事業については、市としてはヤマブドウに絞って取り組んでいる状況。

(委員)

同じく1-④農林業の稼ぐ力の創出に関連して、近年、上田市ではJA信州うえだ青年部、商工会議所の活動などで真田REDアップルなど特徴的な取組をしているが、本報告書の中では触れられていない。参考KPI 農業産出額の数値には、これらの活動の出荷額は含まれていないということか。もっと、地元での取組の結果が見えるものを評価指標に取り組みべきではないか。

(事務局)

参考KPIの農業産出額は、上田市管内の農業を集計したマクロの数字であり、当然その中には各個別の取組の産出額も含まれているものではあるが、委員のご意見は、今後の戦略策定においては、個々の特徴的な取り組みが成果としてより見えやすい形の指標を導入すべきではないかというご指摘として承る。

(委員)

「1-④農林業の稼ぐ力の創出」中、ヤマブドウ系ワイン用ぶどうの栽培研究について、昨年の総合戦略推進協議会の際にもヤマブドウはワインよりもジュースとして売り出す方が良いのではないかという意見が出たかと思うがそれに対する対応、経過について教えてもらいたい。

(事務局)

いただいた意見については担当課でも承知しているが、個別事業の詳細な進捗状況の検討状況については、事務局では把握できておらずこの場で回答はできないことをご了承いただきたい。ただ、ヤマブドウに関しては、苗木の定植が行われ、まだ実がなりつつある状況と聞いている。今後、このブドウを使って醸造が進み、ワイン用品種として適しているのか、ジュースの方が商品価値が高いのかを検証することになると思われるので、委員のご意見は今後検証すべき視点として承り、担当部署にしっかりと伝えてまいる。

(委員) 担当部署でなければ詳細不明な点が多いことは理解するが、今後、その辺りの回答を聞く機会はあるのか。

(事務局) 本日、各事業の担当部署が出席できていないことはお詫び申し上げます。個別の事業内容等についてのご質問、ご確認等については、会議後等でも事務局あてにメール等でお問い合わせいただければ、担当課に確認後責任をもって回答差し上げる。他方で、本日の会議趣旨は、指標の進捗状況等を踏まえて、上田市全体の状況を把握する中で、上田市の取組の弱い部分をご指摘いただいたり、もっとこんな取組も進めるべきではないかといったご意見を委員の皆様からの専門的な知見からご提案いただき、今後の施策、戦略の改訂に繋げてまいりたいと考えている。

(委員) 「1-④農林業の稼ぐ力の創出」中、今後の取組方針について、林業の振興は大きな課題であると感じている。ここでは、木質バイオマス発電所での活用を研究するとあるが、個人的には木質バイオマス発電は発電効率が悪いという面もあり、大量の木質バイオマス投入には否定的である。利活用の難しい間伐材の投入はやむを得ないと思うが、全国的には木質バイオマス発電施設の稼働を目的に皆伐される例などが問題になっており、木は材としての活用を第一に考えることが持続可能な林業に繋がると考える。是非、バイオマス発電による燃焼だけを考えるのではなく、材としての活用、燃料としての活用を適切に考慮して施策を展開していただきたい。

(事務局) 来年度から森林環境譲与税という制度が始まり、木材の利活用や森林の適切な管理のための財源が新たに上田市にも交付される予定。上田市としても森林の適切な管理というのを考える時期に来ているので、いただいた御意見を担当課にしっかりと伝え、熱効率の観点やその他さまざまな観点も整理しながら検討を進めてまいりたい。

(委員) 今話の出ている林業に関連して、林業従事者の推移などはどのような状況なのか不安に思う。森林政等の税金が徴収され、予算が投入されるといっても、実際に山を整備していく人がいないとなると本当に整備できるのかという問題がある。

(事務局) 手元に林業従事者の推移のデータがなく、正確なご回答ができないが、林業人材については、現在県でも専門的人材の派遣など検討している状況。ご指摘の人材の育成、確保という点は重要な視点であると理解している。

(委員) 「1-②人材育成・雇用マッチングの拡充」中、主な取組①UIJ ターン就職支援事業について、平成 28 年でいえば、相談者数 112、延べ相談件数 782 件ある中で、実際に就職が決まったのは 14 名という理解で良いか。

(事務局) 数字はそのとおり。相談者によっては複数回相談することもあり、延べ相談件数は大きくなる。また、それだけ相談件数があったのに、就職が決まったのが 14 名ということについては、この数字、事業の効果が大きいのか、小さいのかという評価はそれぞれあると思うのでその点も委員の皆様からご意見をいただければ幸い。

(委員) 「1-③若者等の多様な働き方の支援」中、主な取組②創業促進支援事業について、創業支援

を受けた後、制度上、事業を継続する義務はあるのか（委員の問題意識は、補助金を受けたのち、創業の効果がしっかりと現れる事を担保する制度とすべきであるという点）。

（事務局） 担当課に確認ののち回答させていただく。

（委員） 雇用の分野で一点発言したい。「1-②人材育成・雇用マッチング拡充」「1-③若者等の多様な働き方の支援」中、商工部局で様々な取組を行っていることを評価。その中でも UIJ ターンについては、今、上田市だけではなく、いろいろな自治体で東京に一旦出て行った若者をどう地元に戻すのかということに力を入れており、いろいろなところでその対策を目にするが、そもそも都会へ出て行った学生は、地元魅力的な企業があるということを意外と知らなかったり、職業というものに対する意識がぜい弱であるという現実がある。よって、まずは地元魅力的な企業があるという情報発信、小中学校のころから地元の企業、職業を知るプチインターンシップのような機会があると、職業意識の醸成や人手不足解消に繋がり地元への愛着を高めるということに繋がるのではないかと感じている。

（事務局） 首都圏の学生等に対する情報発信などの重要性は理解しており、現在国に地方創生推進交付金事業として提案しているところ。認定されれば積極的に事業を展開してまいりたい。

（委員） また、人手不足を解消するという意味では、国では特に高齢者の活用ということに力を入れており、生涯現役活躍促進事業というものを進めており、ハローワークでは今度の4月から70歳以上専用の窓口を設けることも検討しており、高齢者のスキル活用というのが大きな鍵になっていると考えている。

一点質問だが、「1-③若者等の多様な働き方の支援」中、基本方向にアクティブシニア層というワードがある。個人的にはあまり目にしたことのない言葉だが、何か定義等あれば教えていただきたい。

（事務局） アクティブシニア層については、国では地方創生メニューとして生涯活躍のまち事業というものに取り組んでおり、元気なうちに高齢者に地方へ移住してもらい、スキルを生かした活躍をしてもらうという方針を掲げている。上田市ではまだ具体的に生涯活躍のまち事業に取り組んでいるわけではないが、そのような方向性を捉えた言葉として理解いただきたい。

（委員） 「1-⑤多様な産業の集積促進」中、KPIとして、企業立地件数1件、雇用100人という実績が出ているが、どのような企業を誘致するのかという方針、基準はあるのか。本来であればただ雇用が生まれるという視点だけではなく、その企業が存在することで地域内の経済循環が生まれるのか、地産地消が進むのかという観点も重要であると考えている。

（事務局） 現在、企業誘致を進める上で、業種を絞って募集しているわけではないが、ARECなどと共に商工部局で進めている事業では、地域内循環という考え方の重要性は認識しており、委員御指摘の企業誘致を進める際には、そのような視点も盛り込むべきではないかというご意見は重要であると考えている。

【戦略2】結婚・子育てしたい戦略

（委員） 「2-②きめ細やかな出産・子育て支援推進」中、保育サービスの向上等は入っているが、保

育士の労働環境改善に向けたテーマなどは入っていない。取り組むべきではないか。

(事務局) 幼児教育無償化の議論の中でも重要な問題であると認識している。現戦略の中で明示されてはいないが、今後の戦略等改訂等に当たっては重要な視点として施策を明記することも検討してまいりたい。

(委員) 「2-③未来に繋がる特色ある教育の推進」中、ICT機器の導入を進めているが、子ども達が危険な状態に陥る可能性もあるため、併せてしっかりとメディアリテラシー教育に取り組むことが必要である。長野市は、あらゆる機関が一緒になって子ども達のメディアリテラシーについてしっかり考えようという取組が進んでいる。また、メディアリテラシーを教育出来る人材の育成という観点も重要であるが、上田市は取組が遅れていると感じている。

(事務局) 戦略に明示されているに拘わらず、学校教育の現場では、進めていただいている部分であると認識している。ご指摘について、より具体的な認識をもって取組を進めるよう担当部署で検討してまいりたい。

(委員) 「2-③未来に繋がる特色ある教育の推進」中、サントミュージゼの利用については、興行の予約が多く入っており、地元の学校等が利用できないという声が聞かれる。公共施設でもあり、地元の学生などが優先的に利用できる仕組みなど、改善の余地もあるのではないかと。

(事務局) 興行が多く入っていること自体の賛否については様々な意見があるところかと思う。サントミュージゼの在り方については、市長の公約にもなっており、来年度、利用者も含む有識者の検討委員会を設置するなどしながら今後の在り方を検証していく予定。

(委員) 2 結婚・子育てしたい戦略 の KPI 合計特殊出生率が減少した要因の分析の中で、外国籍の女性が増えたことが主たる要因のように書かれている。あたかも外国人女性が増加することが上田市の戦略推進に悪影響を与えるかのような印象があり、誤解をまねく印象があるので表現が相応しくないのではないかと。

(事務局) 合計特殊出生率を算出する際の分母、分子の増減要因を解説した趣旨ではあったが、ご指摘のように感じる方はいるかもしれない。配慮を欠いた表現があったかもしれないので、修正する。

(委員) 「2-①結婚につながる出会いの応援」中、婚活イベントにも力を入れられているかと思うが、成婚者数の伸びは芳しくないという表現もある。内閣府の少子化対策白書の中でも、結婚意欲、交際意欲ともに、正規雇用者は高く、非正規雇用者は低いというデータが示されている。必ずしも出会いの場がないということだけが結婚数減少の原因ではないと思うので、結婚セミナー一本槍ではなく、違う視点での対策が必要ではないかと。

(事務局) 「2-①結婚につながる出会いの応援」中、主な取組④に結婚新生活支援事業というものが掲載してあるように、平成 28 年度から国の交付金を活用して低所得者世帯への経済的な結婚支援策を県内 19 市の中で先駆的に導入したという実績がある。結婚という個人のプライバシーも絡む問題にどこまで市が踏み込むかという難しい問題もあるが、ご指摘の点も踏まえ様々な方策を検討してまいりたい。

(委員) 「2-②きめ細やかな出産・子育て支援推進」中、妊娠から子育てまでの支援が多く有ることは理解できた。一方で、産みたい、産もうと思わないとなかなか出生数は増えない。どうして産もうと思わないのか、なぜ一人っ子が多いのかという視点がないままにただ支援しますよ、産んでも大丈夫ですよというメッセージを送ってもなかなか難しいのかなと感じている。内閣府の白書のアンケートでは、「子育て教育にお金がかかる」「自分の仕事に支障が出る」といった経済的、仕事の面というのが結構大きいという結果になっている。その他、「家が狭い」、「自身が高齢で産みたくない」「母親の負担が大きい」「父親の協力が無い」などもあり、妊娠中はもちろん、妊娠前のサポートという視点も重要であると感じた。

一方で、私の周りには子たくさん家庭も多く、上田に引っ越してきて感じたのは、地域の中に自然なお産をしようという考えがあって、助産師さんによる産院での出産が流行っているという状況だった。そのような出産のおかげで最初のお産が充実していた、最初に感動のあるお産を経験した人は子たくさんになる傾向が強いと感じる。良いお産を体験してもらおうという視点も大切かもしれないと思うが、産院が産婦人科病院に変わり、お産が昔と変わったという声も聞く。そういった声、実態なども調査しながら施策を検討していきたい。

(事務局) 貴重なご意見として承り、担当課でしっかりと検討し新規の施策などにつなげてまいります。

【戦略3】訪れたい・住みたいうえだ戦略

(委員) 「3-①地域資源を生かした知名度アップと交流促進」中、今後の取組方針で「滞在時間を長くし宿泊に繋げる滞在型観光に向けた「稼ぐ観光」への転換を図ること」とあるが、宿泊滞在型＝稼ぐ観光には気になる表現であり、稼ぐ観光となるためには、柳町の例もあるように必ずしも宿泊でなくても良いのではと考える。柳町の観光バス誘致などは民間企業の始めた取組を市、シルバー、観光協会でも支援してもらっているところではあるが、まれにバスの駐車場を巡り観光バスと観光協会の間で揉め事が起こることがあるようであるが、民間企業が中心となって一生懸命誘客しているものなので、できるだけ市もバックアップや応援していただけるようお願いしたい。

(事務局) いただいた御意見は担当部署にも伝え、今後の取組に生かしてまいります。

(原 委員) 「3-①地域資源を生かした知名度アップと交流促進」中、主な取組③には外国人観光客の誘客の取組であるが、多言語のパンフレットなどは、観光会館等市の関連施設でしか配布されていないのではないかと。柳町などでも外国人観光客は多く、せっかく制作した多言語パンフレットなので、是非民間の店舗等にも配分、配置いただければ良いと思う。

(事務局) 多言語化パンフレットは当初、国の交付金を受けて実施した事業。いただいた御意見は担当課に伝え必要に応じて、増刷や各施設への幅広い配布を検討したい。

(委員) 主な取組④にある旅の観光タクシーはあまり評判が良くない、実態を調査し、改善を図っていただきたい。

(委員) 「4-⑤まちとまち、人と人をつなぐ広域連携促進」中、主な取組⑤に観光ガイドの養成の話がでていますが、ガイドが不足していると感じている。史跡を案内できるシルバーさんは多くいるのだが、観光という視点で案内できるガイドがまったくいない。民間の取組として柳町などで頑張っているが、是非観光ガイドの育成というところでも市の協力をお願いしたい。

(委員) さいたま市と連携したシティプロモーションの取組について、さいたま市でイベントを開催し、発酵4姉妹として参加した。第1回目ということもあるのかもしれないが、参加者の3分の2ほどが行政関係者で民間は3分の1だったと聞いた。お金をかけ、さいたま市にアピールするのであれば、行政関係者だけでなく一般の参加者にも多く参加いただけるイベントとしていくことが望ましいのではないかと。

(事務局) 御意見は担当課にも伝え、今後の検討事項としてまいりたい。

(委員) 稼ぐ観光、外国人観光客誘致という点、金融機関から見ていると、この上田地域、キャッシュレス化がなかなか進んでおらず、タクシーに乗るのも現金という状況。交通機関も軽井沢まではSuicaが使えるのに、上田では使えない。政府の方でも推進しているが民間企業にとってもクレジット用端末の整備に費用がかかる現実がある。上田市内のキャッシュレス化について市からもいろいろな告知や対策に力を入れていただきたい。

(事務局) 貴重なご意見をいただいた。国でも検討を進めているのでその動向も注視しながら市でも進めてまいりたい。

(委員) 観光について、近年バタバタと旅館がつぶれており、真田丸の誘致を成功だったと片づけて良いのかという問題はあると感じている。

また、柳町は観光客が歩く、散策することでいろいろとお金を落としていくという仕組みができており、今観光の基本はお客さんを歩かせるというところにあるが、上田城はバスで乗り付けて、公園内を周って、トイレに寄って、またバスでどこかへ行ってしまうという場所になってしまっている。この状況が本当に観光と言えるのか疑問であり、市は観光バスの来場台数を指標としているがこの状況を改善すべきと感じている。

先ほど、他の委員からもタクシーの話があったが、上田のタクシーは禁煙車であってもタバコ臭いという印象。乗車席は禁煙のため、運転手が吸っている現状にあり、観光面でもマイナス影響があり、市とタクシー業界一丸となって改善を目指すべき。

(事務局) 観光という面では温泉街でも空き店舗などがあり、その空き店舗を埋めて活用するような施策や補助メニューを検討しているところ。タクシーの問題も貴重なご意見として承り、担当課で検討してまいりたい。

(委員) 移住、空き家バンクの関係になるが、今は離婚率が高くなっており、シングルマザーも多いため、空き家等を活用してシングルマザーに焦点を当てた移住促進策を検討してはどうか。シングルマザーが住みやすい街は、若い人をはじめ誰もが、住みやすい街になると思う。上田に来れば、都会のような待機児童の心配もないため、人口増の希望もある。

(事務局) 貴重なご意見として承り、担当課で検討してまいりたい。

(委員) 全体の話になるが、ここで出された委員の意見はどのように生かされるのか。

(事務局) こちらでいただいた意見は、中間評価報告書の別冊という形で、有識者の意見としてまとめて公表するとともに、今後の新しい総合計画、総合戦略を検討するなかでもご意見を取り入れてまいりたい。

(委員) 社会増減は増えているということだが、原因は分析されているのか。分析をしなければこの流れを維持し、伸ばしていくことはできない。また、人口減少、少子高齢化の流れは止められない中でより危機感を明らかとするためにも、一人の高齢人口を何人の現役世代で支えるのかという数値についても将来の話だけでなく、現状との明確な比較で積極的に表現していくことが重要ではないか。

(事務局) 人口の社会増については、外国人の転入の影響が大きいと分析している。外国人の増える理由は市内製造業への就業や、市内の日本語を学ぶ留学などが要因として考えられる。外国人が住み続けやすいまちづくりも重要と考えており、外国人も参画するまちづくりという視点も踏まえた施策展開も必要と考えている。

(委員) 移住促進と観光という話は近いものがあると思うが、市の魅力を伝える上で、例えば自然エネルギーの活用事例など観光面以外の魅力の活用、発信という視点も重要ではないか。

(事務局) ご意見は担当課にも繋ぎ、今後の施策に生かしてまいりたい。

(委員) 稲倉の棚田の活動にはファンも多いと思うが、高齢化など運営が大変だという声も聞いており、運営が長く続かないといった不安もある。市でのサポートなどを検討してはどうか。

(事務局) 稲倉の棚田については、地域おこし協力隊の積極的な参画という形でサポートしている。地域づくり協力隊卒業後の継続的な取り組みへの参加や、観光課、農産物マーケティング推進室としての関与の仕方なども検討してまいりたい。

【戦略4】ひと・地域の輝き戦略

(委員) 「4-②健康寿命を延伸する施策の推進」中、主な取組⑧健康づくり応援サイト・アプリ構築事業は「うえだ家族」のことで良いのか。もし違うなら、周知に当たってはそれぞれのアプリの利点を明確にし、その辺り勘違いが起きないように配慮いただきたい。「うえだ家族」は大変使いやすく、子育て世代に便利なものであり、私の子育て中にあれば嬉しかったと感じている。アプリ等の活用自体は評価するが、アプリが乱立すると、市のアプリをいくつもスマホに入れなければならなくなる。一体化など市民の利便性にも配慮が必要と考える。

(委員) 鹿教湯温泉健康の里事業について、イベントはたくさんやっているイメージがあるが、温泉を生かした健康づくりという趣旨での発信は弱いと感じている。

(事務局) イベント開催以外では、ポールウォーキングの普及、推奨活動やベンチの整備、旅館に宿泊した人が楽しんでもらうボードゲームを活用した地域活性化などにも取り組んでいる。詳細はまた次回地方創生推進交付金事業の評価検証の際にご説明させていただく。

(委員) 「4-③暮らしや観光に資する交通システムの維持・拡充」中、公共交通政策について、運賃を下げたことで利用者が増えたという点は良かったかと思うが、全国的に都市部以外、公共交通は運賃だけでは成り立たないという状況。公的資金を投入して公共交通を維持するのであれば、例えば病院に行きやすい路線、子ども達が学校へ行きやすい路線など必要なところに必要な運行をとるようにしっかりと分析し、戦略的に配分することが重要。今は自家用車でどこへでも移動してしまうが、公共交通の活用は環境にも優しく本来であればもっと活用されるべきと考えている。

(事務局) 現在、実証試験の結果も分析し、今後の在り方を検討しているところ。

(委員) 「4-②健康寿命を延伸する施策の推進」中、健康寿命延伸について、特に糖尿病予防に力を入れているが、県の資料で、循環器系疾病治療の一人当たり医療費は、糖尿病のその7倍という数値がある。脳卒中の要介護認定の数は糖尿病の7倍であり、糖尿病だけでなく、循環器系の予防にも力を入れていくべきではないか。また、住宅の断熱化が循環器系疾患の予防にも繋がるという話もある。

(事務局) 糖尿病は腎不全を誘発し、ゆくゆくは透析治療が必要となる。透析治療は1人、年間4～500万円かかるので、保険者にとって大きな負担となっているという実情があることから糖尿病予防に力を入れているところ。委員御指摘の点も併せて担当課に伝え、今後の施策に生かして参りたい。

【全体を通して】

(委員) 私は経済も意識しているが、環境保護の活動にも携わっており、総合戦略の中に環境の視点が少ないと感じた。例えば、企業誘致の際にCO₂をどの程度排出する産業なのかなど、産業や交通の面でも環境の視点を取り入れていただきたい。将来的には炭素税導入による産業への影響などもあるかもしれないのでその辺りも意識して。また、公共交通を利用していき、自転車での移動がしやすいまちづくりなどが持続可能なまちづくり、経済循環にも繋がるという面があるかと思っている。

(事務局) 総合戦略は人口増が目標となっており、どうしても産業・雇用確保などの話題が中心になっている。委員御指摘のとおり、政策トータルで見るという視点も重要。来年度以降、総合計画、総合戦略を見直していく中で、上田市としての売りをどう出していくのかということは考える必要がある。そしてそれを魅力として、移住定住や、観光といった人を呼び込む施策に繋げていくということが重要。総合計画に総合戦略の要素を盛り込んでいく中で、環境なども含めて今後どのように各種視点を取り込んでいくのかしっかりと研究、検討してまいりたい。

(委員) 戦略評価、進捗評価を見ると、少し甘いというのが感想。確かに数字だけを見ると、一定程度進んでいるというようなことでそのような評価になっているのかとも思うが、各分野にまだ中に隠れた課題があるはずであり、指標の数値は伸びているものの、その課題の抽出、対策にまで踏み込んだ評価をしていただけると次のステップに繋がりがやすく良いかと思

う。

(委員) 今度新たに設置される政策研究センターによって、今後の総合計画、総合戦略の方向性が大きく変わるというような見込みはあるのか。

(事務局) それは研究するテーマにもよると思われるが、研究テーマは分野横断的なものとなる予定であり、編、章、節といった分野ごとに構成している総合計画等にどのように落とし込むのかということかと思う。その意味で大きく変わる可能性は小さいかとも思うが、例えばAI、IoTといった研究成果が出たときには、総合計画の各分野に広く散りばめていくということが必要になると思うので今後検討してまいりたい。

7 閉 会

(司会：上田市政策企画課長)

以上